

# 教科によるPDCA

～ 研究テーマ「学び合い、考える力を伸ばす授業を目指して」～

## 英語科

### 平成19年度実践報告

#### 1. 第2回授業評価 (PDCA)

ア. 本年度授業のめあて Plan

英語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える基礎的な能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

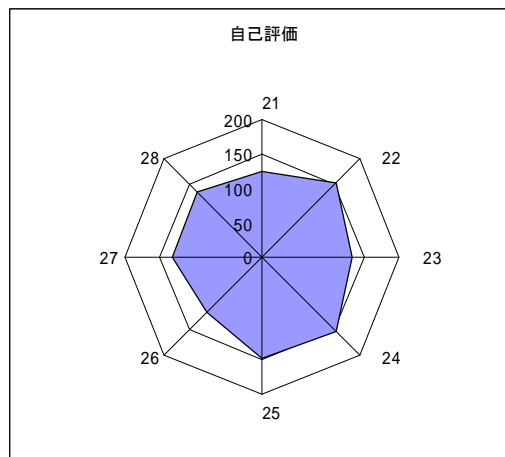
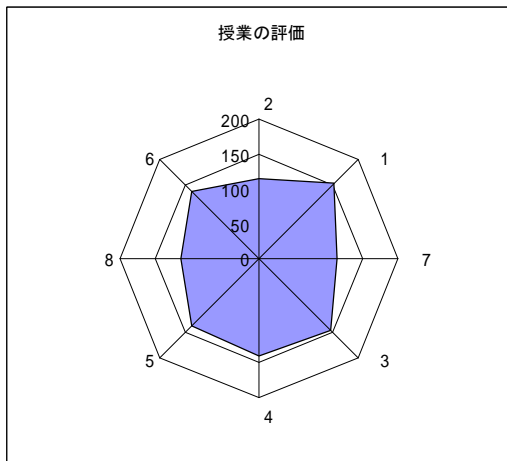
イ. 第1回の授業評価を受けて工夫した取り組み Do

第1回の授業評価を受けて、以下の改善点を確認し2学期以降の授業に当たった。

上層の伸びこぼしのないレーダーチャートの理想型になるには、教師側の取り組みとしては、授業をさらに「生徒の学習意欲や学力を向上」させるものにし、授業において「生徒の主体的な活動」をさらに増やすことが必要となる。その一方、「授業中の先生の説明」はわかりやすく、「質問に対する対応」は親切であると多くの生徒は考えている。生徒自身の自分の学習に対する自己評価としては、「課題を実力を伸ばすこと」に役立てておらず、「復習が十分」でないとしているが、その他の点では概ね評価が高い。

ウ. 上記イの取り組みの成果と課題 Check

上記イのその結果、3学期は生徒から以下の授業評価を受けた。



- 1 授業中の先生の説明はわかりやすいですか。(板書の工夫などを含む)
- 2 先生の授業の速さ(進め方)は適切ですか。
- 3 先生の授業に対する熱意・意欲・工夫を感じますか。
- 4 質問をしたときの先生の対応は親切ですか。
- 5 授業を通してこの科目に関する学習意欲や学力が向上してきていると思いますか。
- 6 授業の中で自らが主体的に活動し、学ぶことが楽しいと感じる場面がありましたか。
- 7 授業内容は難し過ぎませんか。
- 8 課題の量は適切だと思いますか。
- 21 成績がどのように付けられているか理解していますか。
- 22 毎時間チャイム前までに授業の準備をしていますか。
- 23 この教科の学習方法を理解していますか。
- 24 授業の予習はしていますか。

- 25 授業に積極的に参加していますか。
- 26 授業の復習はしていますか。
- 27 授業を受けた際の疑問点は、解決できていますか。
- 28 課題を自分のものとして取り組み、実力を伸ばすのに役立っていますか。

「授業の評価」を分析すると、「授業速度はやや速く」、「授業は易しすぎず」、「課題は少なすぎない」という上位層の伸びこぼしのない結果となっている。「生徒の主体的な活動」を多く取り入れた結果、「生徒の学習意欲や学力を向上」させる授業になったと多くの生徒が考えてくれたようである。

「自己評価」を分析すると、「チャイム前に授業の準備」をし、予習や課題をきちんと行い、積極的に学習に取り組む生徒像が浮かび上がってくる。

## エ. 改善の手だて Action

生徒の積極的に学習に取り組む前向きな態度を維持させつつ、学び合いの形式も適宜取り入れながら、生徒が主体的に学べる授業を目指し、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度をさらに伸ばしたい。

## 2. 平成 19 年度の教科としての総括

ア. テーマ実現のための指導を振り返って、学習者が主体的に学びに向かうために行った工夫を具体的に挙げて下さい。

- ・ T Tにおけるペアワークの重視。  
アクティビティはもちろん、辞書を相互に引かせ、意味を確認し合うことまでペアで行わせた。
- ・ グループワークでの英語の歌唱。  
1 クラスを 3 グループに分けて、英語の歌を歌う活動を行った。一人 1~2 フレーズ担当した。
- ・ 英語 I・II におけるペアワークの活用。  
教科書の暗唱を授業冒頭で相互にチェックさせた。また、Read & Look Up などでもペアワークを多用した。
- ・ グループワークの利用。  
英文による要約や英作文など、難易度の高い活動で、お互いにわかるところ、わからないところを確認させあった。
- ・ 土曜活用講座（1 年発展）におけるグループワーク。  
国公立 2 次試験についてグループで検討させた。

イ. テーマ実現のための指導の結果として、どのような変化が見られたかを具体的に書いて下さい。

- ・ T Tにおけるペアワークは、ペアリングの工夫やどの活動でペアワークを行うかを様々に工夫し、生徒のモチベーションが下がらないようにした。その結果、生徒から概ね好評を得ている。
- ・ 英語の歌唱指導に関しては、グループ分けを自由にさせ、評価方法や個人の責任を明確にすることで、生徒のモチベーションが高まり、グループの中に自然発生的にリーダーが生まれ、仕切るようになっていった。それぞれが自分のパートを意識し、発音やイントネーションにも注意を払い、それを相互に検証し合っていた。評価とその結果についてはコンテスト未実施のため現段階では述べられないが、毎週「歌う」という活動自体は大変好評を得ている。これほど素直に「歌う」という活動を受け入れてくれるとは思わなかった。
- ・ ペアワークの活用により、ペアからの刺激を受け、自分もせねばという気持ちを持つ生徒が増え、クラス全体の勉強をせねばと言う雰囲気が醸成されていったようだ。その結果、小テストの合格率が、年度当初の 57% から 3 学期現在 89% へと大幅にアップしている。
- ・ グループワークを入れることによって、授業が活性化し、必ずしも指名によらず発表が見られるようになった。

**平成 20 年度実践報告**

## 1. 第1回研究授業（実施中心日6月26日）を受けて

- ア 日時 6月26日（木）3限  
イ 場所 1年4組HR  
ウ 指導者 湯浅 未和子 教諭  
エ クラス 1年4組標準コース選択者（16名）  
オ 単元 PRO-VISION ENGLISH COURSE Lesson 4 Part 4  
カ 協議会での助言・感想

### (1)授業者のコメント

予習，授業，復習のサイクルを徹底させることを意識している。なるべく1時間のうちにペアワークなどを取り入れ，生徒が飽きないように工夫しているが，1時間集中することが難しい生徒もいる。単語カードを利用したり「相互訳」を活動に取り入れたりしているが，活動のメリットを十分活かしてきれていない反省点もある。

### (2)参観者の意見

「相互訳」を入れるタイミングや使い方には工夫が必要。予習を徹底させるということが目標であれば授業の最初でも良いが，本来の意味でのコミュニケーション活動を重視した活動にするのであれば，まだまだ研究の余地がある。

## 2. 第1回授業評価（6/26～7/18 実施）を受けて（PDCA）

- ア. 前年度の成果と課題（本年度授業のめあて） Plan  
〈成果〉授業の評価では速度はやや速く，易しすぎず，課題は少なすぎず，生徒の学習意欲や学力を向上させる授業になっている。  
〈課題〉上記の成果を更に向上させること
- イ. 取り組みの方法 Do  
発問→個人思考（1～2分）→机の周辺での話し合い（2～3分）→全体の前での発表→要点の確認といった過程を踏むことによって「学び合い，考える力を伸ばす」
- ウ. 第1回授業評価の結果分析と課題 Check  
1，2：授業の速さは「適当である」が約9割で，もう少し負荷をかけるべき，か。  
3，4：教員の熱意，親切さはよく伝わっている。  
5：生徒の学習意欲や学力の向上については，否定的な回答が18パーセントある。  
6：生徒の主体的な学びについても，否定的回答が25パーセントある。  
7，8：授業内容や課題の量に関しても，否定的回答（23と18パーセント）がもうすこし増えてもいいのでは。  
21：成績のつけかたの説明がまだできていない（1年生），生徒が聞いていない（2年生）。  
24：全く予習をしない，が12パーセントもいるのは，授業が易しすぎるのか，それとも…
- エ. 2学期に向けての改善の手だて Action  
もう少し生徒に負荷をかける授業にしていく必要があるのかもしれない。

## 3. 第2回研究授業（実施中心日10月7日）を受けて

- ア 日時 10月7日（火）1限

イ 場所 視聴覚教室  
ウ 指導者 尾崎 二郎  
エ クラス 2年7組 発展選択者  
オ 単元 POLESTAR English Course Lesson 11 One Language or Many?  
カ 協議会での助言・感想

#### (1)授業者のコメント

・課の内容が、議論の際の意見の提示の仕方、反論の仕方であったので、会話文の内容理解にとどまらず、是非ともアウトプットの活動をさせたいと思い、スピーキングの活動を中心にすえた学習活動を行った。今回は、要約の際の情報のまとめ方と伝える順序の「型」をテンプレートとして使用し、それを見ながら、キーワードのみを参考に、暗唱ではなく、自分なりの英語で伝える re-telling 形式で活動させた。

①自由に話すのではなく、他人の意見を整理・要約して伝える。

②現実離れした仮定のもとに戦わせる議論なので、仮定法を正しく使って表現する。

③パワーポイントないしはプリントで提示されたテンプレートを見ながらも、話すときは聞き手の目を見て、相手に伝えている、という意識を持って練習する。

以上の3点に留意させて授業を展開した。

発展クラスといえども能力差がかなりあり、今回のような活動は難しすぎると感じる生徒も多かったようであるが、表現例をプリントで与えることで、それぞれの力に応じて、自分なりの挑戦が可能になるように配慮したつもりである。要約については、授業の中で、また宿題として、継続して指導しているが、今回のような「型」から入るアウトプットの活動が、今後、生徒が自分で情報を処理し、発信することにつながるようにしたいと感じている。

#### (2)参観者の意見

・最終的に身につけたい言語運用能力の到達点を先に示して、本時の活動に入ったのがよかった。

・スピーキングに焦点を当てた、見応えのある授業だった。

・フリーにスピーキングをさせるのではなく、内容や文法・語彙に関してある程度のコントロールしながら(キーワードを与えるなど)、させたところがよかった。

・発信にフォーカスをあてていたところがよかった。

・リーディング・ライティング・リスニング・スピーキングの4技能がよく統合された授業であった。

・教師と生徒のインターラクトで授業が進んだが、生徒はお互いの発話をよく聞いていて、十分に学び合いができていた。

・まとめとして、お互いのスピーキングをチェックしあうペアワークを行っていた。

#### (3)生徒の意見・感想（もしあれば）

・自分の力では難しすぎると感じたが、やっているうちに「伝え方」が何とか形になってきた。

・仮定法の形にも注意しながら話さなければいけないので、頭をずいぶん使ったように思う。